

平成23年度学内版 GP 成果報告書

取組名	グローバルな情報発信能力を有する高度専門人材育成プログラムの開発
実施組織	繊維学部
実施責任者	平林公男
取組の目標	現場で使える実践的な英語発信力を持つ人材の育成
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	(1) 自由科目「実践的英語ライティング・スピーキング演習」を導入した。受講者 16 人(2 年生 8 人, 3 年生 6 人, 4 年生 2 人) (2) TOEIC-SW テストの実施 TOEIC-IP スコアが 550 点以上の学生, 院生を対象に受験者を募り, 10 名が受験した。受験者には受験料 5000 円の補助を行った(受験料 8800 円)。 (3) TOEIC-Bridge の実施 クラス分と TOEIC テストへの導入を目的に、新入生全員を対象に TOEIC-Bridge テストを実施した。 (4) TOEIC-IP テストの実施 1, 2 年次の学生全員を対象に 6 月と 12 月に TOEIC-IP テストを実施した (5) 米国のテスト機関 ETS の英文エッセー採点評価サービス CRITERION に加入し, 上記(1)の授業において毎週 CRITERION の宿題を課した。 (6) FD の実施 指導者向けの TOEIC-SW ワークショップ及び TOEIC ワークショップに参加し、実践英語の教育上の Good Practice の研修を受けた。 (7) オンライン英語学習システム「アルク NetAcademy」を 2 年次の全英語クラスに組み込み, 毎週宿題を出し, 次週小テストにより学習を確認し、TA が採点し、翌週に答案を返すサイクルにより、教室外学習を強化した。 NetAcademy の学習状況に関するアンケートを行った。 (8) 厳格な成績評価及び単位の実質化 2 年次の成績評価は TOEIC スコア 30%、NetAcademy 小テスト 20%、期末テスト等 50%とし、国際基準による達成度評価、教室外学習の強化を実現した。
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望	1, 2 年次で理解力(読む、聴く)の向上を図り、十分な理解力(TOEIC500 点)を達成した学生の発信力の向上を図る本取組によりグローバルな情報発信能力をもつ技術者育成の教育インフラが整備された。平成 24 年度は「実践的英語ライティング・スピーキング演習」を自由科目から選択科目に格上げし、学部の専門教育に位置づけ、受講者の増加を図り、将来的には 2 クラス規模(受講者 50 人)に拡大し、社会のニーズに応える人材育成に取り組む。受講要件 TOEIC500 点以上を満たす学生は 1 学年に 50 名以上おり、達成は可能である。